

# 国宝 法隆寺金堂展

ART  
開催中

## 仏教荘厳美術を、彫刻として鑑賞。 名作は、単品でもすごいんです。



国宝 四天王像（広目天）法隆寺蔵

普段、何の気なしに拝観しているお寺ですが、よくよく見ると建築・木工・金工・飾り紐・花だの障壁画だのと、数え上げてみればきりが無いジャパニーズアートの集大成。それも全ては仏の教えを尊く見せるため、仏像を立派に見せるための「荘厳インスタレーション」だ。

国宝法隆寺は飛鳥時代の伽藍を今に伝える古刹。半世紀ぶりの金堂須弥壇の修理を機に、国宝を含む仏像、天蓋、台座などがそろって寺外で展示されることになった。厨子から出され、光背というアクセをとった状態の仏像もあり、インスタレーションから個別の彫刻作品として我々の目の前に現れ

- 「国宝 法隆寺金堂展」
- 奈良国立博物館
- ～7.21 (Mon)
- 問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
- 一般1200円

た形だ。

光背を取った仏像を見た知人が、「仏像の肩から背中までのラインがこんなにセクシーだったなんて」と感激していた。名作仏像は寺の外に出て彫刻として見られても生命力がみなぎっているという証明。教科書でみた名仏の等身大に惚れ直すチャンスか？

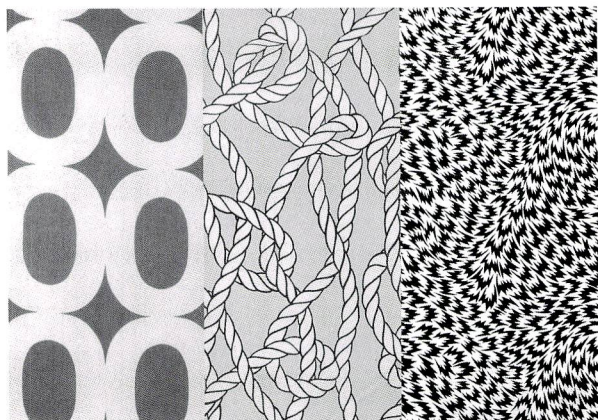
(沢田眉香子)



国宝 法隆寺金堂（西南面）法隆寺蔵

# ELEY KISHIMOTO × 西村兄妹キモノ店 浴衣

ART  
発売中



## 海を越え、紳士のお国のロンドンと、 タッグを組んだ京都の粋、見参。

お洒落に敏感な方はご存知だろうが、そこそこ疎いアタクシは初耳でした「ELEY KISHIMOTO」。

なんでもロンドンを拠点とし、ルイ・ヴィトンやフォルクスワーゲンをはじめとした世界中のブランド&企業とのコラボで知られ、独特なテキスタイルで異才を放つファッションデザイナーだとか。そんな凄者が、なぜ浴衣？

実は「ELEY KISHIMOTO」は夫婦で、奥

様が日本人。ルーツである日本の「何か」と組んでみたいと思っていた矢先、知人を介して日本（しかも京都・京都！）でキモノという伝統産業に携わる兄妹と縁を結んだ。

西村兄妹が持つ伝統的技術を活かし、個性的な柄「チェーン（輪っか）」「フラッシュ（稲妻）」「ローピー（綱）」でつくられた浴衣（下駄、風呂敷もあり）をたとえば、祇園祭でも一際目立つこと必至。

(山田涼子)

- 「ELEY KISHIMOTO × 西村兄妹キモノ店 浴衣」
- 発売中
- 問い合わせ 075-417-6885 (あいぜん内)
- <http://www.kimono-breath.net/>
- <http://www.eleykishimoto.com/>

CMでも「泥まみれのマウンテンバイクをトラックに積み込む者」を感ずる。



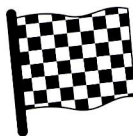
半面、ワゴン車は次々と新型が発売され勢い付いている。そこにクルマそのものに価値を見出し、入れた後のライフスタイルに価値を見出しているという消費者ニーズを感じる。

CMでも「泥まみれのマウンテンバイクをトラックに積み込む者」を感ずる。

## 若者は「ライフスタイル」を、買う。

# Kyoto Car-Moratorium

～京都人のクルマ知らず～



15th Lap



© QUATRE ILLUSTRATION

中島 崇 (なかじまたかし)  
69年生。自称「クルマのソムリエ」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・株・中島商会の二代目社長にして「安くてもいい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で200万円をトフに捨て、大失敗の連続から学んだ「ノウハウ」をまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を自指す京都人。